

チルド加工用バレイショ品種「とうや」の適正な施肥量および株間

慣行栽培に比べて窒素施用量を21kg/10aと多くし、株間20~25cmの密植により増収

背景・目的

- ・近年、大隅地域においてチルドポテト向けの加工用バレイショの産地が育成されつつある
- ・チルド加工用には、でん粉価13%以上が求められ、青果用の主要品種「ニシユタカ」ではでん粉価が低く加工には不適
- ・加工適性が高く、種苗供給が可能な「とうや」が利用されているが、熟期が早く、収量が低い
- ・チルド加工用バレイショ品種「とうや」の増収技術が求められる

成果の内容

「とうや」の窒素施用量は21kg/10a、株間は20~25cmが適当

- ① 施肥量増加 → 茎葉の枯れ上がり遅く → 増収
N14kg/10aに比べて1.5倍量のN21kg/10aは上いも収量が20%増
N28kg/10aでは、腐敗など規格外品が増

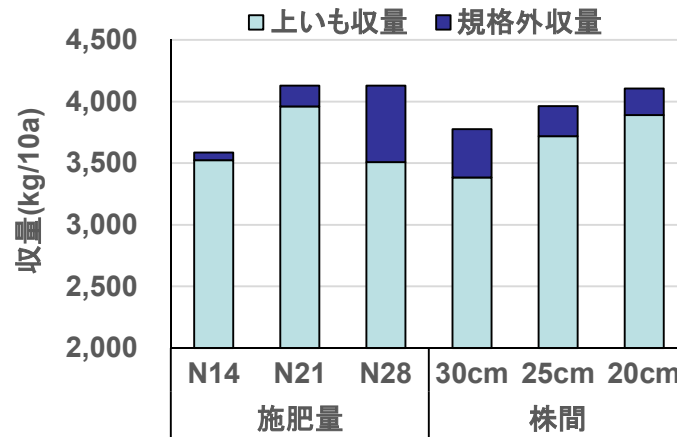


図 施肥量、株間と収量

- ② 密植により増収
株間20cm~30cmの範囲では、
20cm~25cmが多収、規格外品減少

※チルド加工とは、じゃがいもの皮をむき、ポイル後、真空加工したもののことである。
貯蔵温度は、5℃程度で60日程度の消費期限がある。

期待される効果

適正な施肥量、株間で増収
収益増加 → 経営安定

- 増収により収益性向上
肥料代、種苗代増以上に粗収益増加

表 収益性の慣行栽培との比較

施肥量・株間 kg/10a・cm	上いも収量 (kg/10a)	粗収益 (円/10a)	種苗代 (円/10a)	肥料代 (円/10a)	収益 (円/10a)
N14・25cm (慣行)	3,352 (100)	184,360	16,125	21,383	146,852
N21・20cm	4,032 (120)	221,760	20,156	26,433	175,171
増減	680	37,400	4,031	5,050	28,319

注) ()内は慣行比、単価55円/kg(加工用バレイショの標準的な単価)
種苗代及び肥料代は収益性標準を用いて試算

- 原料の安定確保による加工場の操業安定
- 普及対象・範囲
チルド加工用バレイショ生産者

鹿児島県農業開発総合センター大隅支場
園芸作物研究室
公募(経済連委託)